

■本部総務委員会

毎月1回の頻度で実施された本部総務委員会（WEB 方式）に毎回出席。

【主な議題・検討内容】

- ・入退会審査／フェロー会員審査
- ・委員会構成及び委員会規定、同運用基準について／役員候補者選挙規定の改定について
- ・会員規程の見直しについて
- ・正会員の再入会手続きについて／入会申込書書式について
- ・建築家資格制度規定類の改定案について
- ・会員メールアドレス管理及び本部からのメーラー斉配信について
- ・JIA 個人情報保護規定の見直しについて
- ・JIA オープンデスク制度規則の改正について

■知財ワーキンググループ（本部総務委員会 WG）

「知的生産者の公共調達の関する法整備連絡協議会」の支援を目的としたワーキンググループ

- ・2022年4月18日：WG（Zoom 会議）
- ・2022年5月：プロポーザルに関するアンケート調査（北海道支部正会員7名から回答）
- ・2022年6月9日：WG（Zoom 会議）各支部のアンケート調査結果の共有
- ・2022年7月11日：連絡協議会全体会議（Zoom 会議）
- ・2022年11月6日：JAGDA シンポジウム（Zoom 会議）
- ・2022年11月15日：連絡協議会公開シンポジウム（Zoom 会議）
→北海道におけるプロポーザルの状況について菅沼から発言
- ・2023年2月28日：連絡協議会全体会議（Zoom 会議）
千葉大学で取り組んでいる「学校施設における設計者選定方式の評価に関する研究」の中間報告
→入札よりもプロポ案件の方が、利用者満足度が高い傾向

ー総務グループー

リーダー 新貝孝之

1) 2022 年度 通常総会

昨年まで新型コロナウイルス感染拡大の影響により 書面による総会となっていました
が今年度は制約のあるなか対面で行われました。 議事録を添付します。

日時：2022 年 5 月 19 日（木）15：00～15：40 会場： 設計会館 8 階会議室 A

1. 開会、司会進行：鷺見副支部長

2. 定足数の確認：定款 29 条の規定による

会員数 136 名 出席者 41 名 委任状（委任者）33 名 合計 74 名の参加によって

定足数（1/5 27 名）を満たし、総会成立を確認した。

3. 支部長挨拶：小西支部長

4. 議長選出他：鷺見副支部長

・小西支部長を議長に選出することを承認いただいた。

5. 議 事：小西彦仁議長

1) 第 1 号議案 2021 年度事業報告 ：菅沼幹事長より報告

2) 第 2 号議案 2021 年度収支決算報告 ：新貝総務委員長より説明・報告

3) 第 3 号議案 会計監査報告 ：澤 監査より報告

・説明、報告後に第 1～3 号議案の一括審議・質疑に入ったが特に質疑は無かった。

・第 1～3 号議案採決→拍手多数をもって可決された。

4) 第 4 号議案 2022 年度事業計画 ：菅沼幹事長より説明

5) 第 5 号議案 2022 年度収支予算案 ：新貝総務委員長より説明

- ・説明後に第4、5号議案の一括審議・質疑に入ったが特に質疑は無かった。

- ・第4、5号議案採決→拍手多数をもって可決された。

6) 第6号議案 役員改選 : 笹栗選挙管理委員長より選出経過説明

- ・第6号議案採決 →異議なく、拍手をもって可決された。

6. 閉 会: 鷺見副支部長による閉会宣言をもって散会した。

その後 札幌プリンスホテルに会場を移動して 意見交換会が開催されました。

2) 支部総務グループ

- ・毎回 幹事会において審議される 第1～第4 4半期決算の準備と事前審査をおもに行いました。 新型コロナの影響から徐々に通常にもどりつつ 芸術の森美術館で開催された北海道建築展により決算に大きな動きが見られました。

3) 本部財務委員会 新貝孝之

毎月1回開かれる 本部財務委員会 (WEB方式・JIA 建築家会館5階応接室)

に毎回出席いたしました。おもな内容は

- ・2022年度 JIA 事業活動助成について 公益性の審査を行い 補助の有無、補助金額、活動報告の審査。

- ・近年の財務諸表を作成して 理事会における意思決定のために必要なデータを提供する。

——職責グループ ——

リーダー 中原 隆一

2022年度は活動がありませんでした。

—— 広報グループ ——

リーダー 石塚和彦

支部広報グループ

- 1) 「HOKKAIDO ARCHITECTS の横顔」会員紹介冊子の編集・発行
■会員紹介をメインにした冊子の取材・編集作業を行ない、2022年5月・2023年2月に発行・配布した。
- 2) 建築展図録の制作・販売
■2022年9月～10月に開催された建築展の図録を制作し、会場にて販売した。について、制作の検討を進めた。
- 3) 建築展会場での書籍販売
■2022年9月～10月に開催された建築展会場にて、キュレーションを依頼した磯氏・キタコブシ賞を受賞された藤塚氏の書籍販売を行った。
- 4) 建築展後記の制作・発行
■2022年9月～10月に開催された建築展の後記を制作し、2023年2月に発行・配布した。

本部広報委員会

- 1) JIA 本部 WEB サイトリニューアル WG
■JIA 本部 WEB サイトのシステム変更、一般向けサイトページのリニューアルを WG にて検討・実施。
- 2) リーフレット WG
■JIA 本部で発行しているリーフレットの整理・リニューアルを WG にて検討・実施。

—— 職能業務グループ ——

グループリーダー

菅原秀見

1) 北海道建築設計会議への参加

建築設計関連11団体（10団体＋新聞社）で構成される会議体で、年間6回開催された。建築設計の団体に加え、設備設計、構造設計、積算などの団体で構成され、幅広い情報交換の場となっている。本年度の会議は対面で行われ、議題としてはコロナやウクライナ戦禍の影響によるコスト増加、工期遅延など団体ごとに抱える課題の共有に多くの時間を費やした。また、継続のテーマである報酬問題、環境問題、BIM活用についても議論を行った。

本部国際委員会

国内外交流グループ

本部国際委員 菅原秀見

毎月1回開催される本部国際委員会（Web 会議）に出席。UIA を含む各国の建築家団体との交流活動内容の共有、Webinar の企画などについて協議した。また、3年に1度開催されるゴールデンキューブ賞の公開審査会の担当として参画し、結果、講評等について報告書にまとめた。

—支部建築家資格制度実務委員会—

委員長：大田司（支部委員長）

副委員長：中藪則喜（本部委員長）

委員：山之内裕一、澤康昌、中館誠治

■登録建築家更新・再登録審査

2月17日、申請内容の調査を支部資格制度実務委員会で行い、2021年3月28日に登録建築家の更新・再登録の認定評議会をWEBにて行いました。

今回の更新者は北海道支部全体で17名です。内訳は、細則9条1による更新者16名、同9条3による更新者1名です。再登録については1名です。いずれも細則10条1項による再登録で承認されました。

■登録建築家の新規認定審査

今年度は1名の申請者について確認し、調査の結果、適で承認されました。

■支部資格制度委員会での意見（2/17の支部申請調査時の意見交換）

- ・登録建築家を認定登録している評議会のありがたみというのが、少し意識としては低くなってしまっているのかもしれない。依然としてJIAインハウスの資格のままである。国の資格であれば、当然であるが意識は高くなるはず。
- ・国土交通省窓口ではなく文化庁としたほうがしっくりいくのではなか。（モラルや芸術性）
- ・日本では建築家は業者扱いの側面が強いと感じる。
- ・メディア関連でも近年取り上げられる建築家は北海道では田上義也止まりでそれ以降の紹介は極端に少ない。芸術や文化的な報道等もかなり少ない印象がある。
- ・WEBサイトの作り方含めて、これから建築家になろうとする若い人に向けて発信していく必要がある。
- ・登録建築家証の現在のラミネート形式のものは変えた方が良い。有料でもICカードを内蔵する（CPD単位の登録しやすく）見栄えの良いものに変えていく必要はある。
- ・登録建築家のWEBサイトはポートフォリオを最新のものがトップに出るようにした方が良い。認定時の記録が最初に出てしまうが、別窓に飛ぶような方式のほうが良いのではないか。
- ・登録建築家バッジ等はどうか。

■支部委員会の活動方針について

- ・本部の活動、動向の共有→本部での議事録を、会員と共有できるようにしてはどうか。
- ・RA制度担当のJIA支部役員選定→今後の支部役員会で決定する。
- ・RA制度広報等→資格制度勉強会を行う。RAになることが定款上求められている、新規入会時には必ず案内を行う。
- ・JIA新規入会を増やしていくことも同時に進めていくことが必要。
- ・資格制度に対する意見徴収アンケートを実施してはどうか。（2021WEBセミナー時に実施）

以上、2022年度の支部建築家資格制度実務委員会の活動報告です。

本部委員会 災害対策会議

委員 齊藤文彦

・災害対策会議議長が R4 年度より、内野輝明氏（徳島）より水野敦氏（富山）となりました。毎月 WEB にて開催されている会議では、JIA 各支部と地域のつながりを確認したり、JIA としての BCP 対策の見直しについての議論を行っています。本部では、東北大学との連携協定を結び、これからの災害に対してどのように対応するか、事前復興やフェーズフリーという言葉を使い活動を進めています。沖縄大会 2022 のプレイベントとして 10 月 12 日には、オンラインにて「南海トラフ地震に際して必要な全国ネットワークを考える」というシンポジウムを開催した。

また、本年 4 月 26 日には、シリーズ第 2 回となる「復興の事前準備を考える」というシンポジウムを開催し、これまでの各地の災害を知る方々からの知見を得えることを目的とします。なお、今後は、新しくなったホームページの充実も課題として進めていきます。

JIA スクール

齊藤文彦

・対面形式が解禁となりましたが、テーマの募集がままならず、昨年スクール開催はできませんでした。今年からはより一層の社会の活動の再開に向けて、建築設計に係る様々なテーマについて複数回開催できることを期待します。

ー環境グループ

グループリーダー 櫻井 百子

■北海道の建築展 2022 におけるトークイベント

「みえない空気をデザインする～くらし×けんちく×まち」

夏と冬の心地よい室内気候デザインを紐解きながら、

暮らしの中の身近な方法で実践するヒントを探ります。

建築を通して身の回りに広がるまちのことまで考えていきたいと思います。

を企画開催いたしました。

開催にあたって、齊藤 雅也（札幌市立大学デザイン学部・大学院デザイン研究科）先生に登壇いただき、くらし、けんちく、まちの3つのテーマに関わるエピソードや研究についてお話しいただき、グループリーダーの櫻井が、ナビゲーターを務めさせていただきました。

1) 支部総務グループ

- ・活動はありませんでした。

2) 本部 保存再生会議（小野寺一彦）

- ・隔月に Web 会議にて、各支部の活動報告が行われた。
- ・毎年 JIA 沖縄大会にて対面による保存再生会議が行われた。（筆者は欠席）
この会議において、各地で行なわれている活動を分科会方式で活動を行うことを確認。
- ・JIA 四国支部徳島地域会（担：谷 氏）から「船の体育館」こと旧香川県立体育館について協議する場を
保村再生会議分科会として行う報告が行われた。

——まちづくりグループ——

メンバー：○小倉、石塚、大杉、久保田、櫻井、中館、山之内、山本

1) 支部活動

- ・活動なし

2) 全国まちづくり会議

- ・まちづくり萌芽事例シートの募集
- ・来年度のWEBセミナーの企画

——みどり野きた住まいるヴィレッジワーキンググループ——

メンバー：小倉、菅沼、照井

1) 「みどりの野きた住まいるヴィレッジ」に係る調整等業務（北海道からの委託）

- ・第三期の区画割り案作成
- ・敷地利用についてのルールの見直し案作成
- ・問い合わせ対応（事業者面談2回）

2) 「みどり野きた住まいるヴィレッジ」模型製作等業務（北海道からの委託）

- ・北海道住宅フェアで展示する竣工済み住宅（未作成の8軒）の模型作成

——みどり野ゼロ・カーボンヴィレッジワーキンググループ——

メンバー：照井、菅沼、小倉、石塚、大杉、久保田、櫻井、中館、山之内、山本、森、弘田、米花、山内

1) 「ゼロカーボンモデル団地」における住宅に係る設計ルール等検討業務（北海道からの委託）

- ・現地調査（1回）
- ・コンセプト作成のための勉強会、打ち合わせ（7回）
- ・関係団体（北海道、公社、南幌町、ビルダーズ協会）との検討会
- ・コンセプトシート作成

——北海鋼機デザインアワードグループ——

メンバー：○小倉・弘田

1) 第6回開催に向けた準備

- ・審査委員長および審査委員の交代
- ・要項、スケジュールの見直し

2) 記録誌（第4・5回分）作成に向けた準備

アーカイブス委員会の見直しについて

2023年4月11日

アーカイブス委員会(グループ)リーダー

宮崎正之

2017年委員会設置目的として北海道の建築文化に寄与した建築家を後世に引き継ぐ事を目的として「北海道建築家ウェブアーカイブス」作成しようとして立ち上げました。外部からも委員としてご協力を得て、1956年に発足した旧日本建築家協会(旧家協会)の正会員の方から昭和19年生まれまでの方をアーカイブスの対象にスタートし旧家協会の37名方を選定し趣意書(ご遺族の方に)にてご協力を求めましたが回答は皆無でした。以来アーカイブスの方向を北海道建築家年譜の作成を主たる活動計画としましたがウェブ上で公開するためには個人情報の表記クレジットの確認が必要となり、連絡できない事は最大のネックとなりました。5年間の活動も前述の内容で抑制され進める事が困難となり更なる見直しが必要と思いますので一旦委員会として停止させたいと思います。

建築相談室は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在建築相談は停止しております。

活動内容はあります。

5月8日からコロナが5類へ移行されることもあり、HPを相談開始に書き換えて

そろそろ、再開しても良い状況です。

住宅グループ 2022 年度 活動報告書

リーダー 名古屋英紀

■住宅グループ

2020 年よりコロナ禍の影響で活動を休止していました「暮らしの茶話会」ですが、北海道の建築展に合わせ 2 年ぶりに再開となりました。

テーマは「暮らしの中のアート」。ゲストにアーティストの藤沢レオ氏、久野志乃氏、本間真理氏を迎え、日常とかく難しく考えがちなアート作品を、さりげなく暮らしの中に取り入れるための手法や考え方を作家・建築家が参加者と共に探ってゆく内容となりました。コロナ禍での開催ということもあり、会場では通常の緊密な体験型のスタイルをとることは出来ませんでしたが、参加者からはかなり好評価を得た茶話会となりました。

■住宅等連絡会議

○ 定例会議 月 1 回（2022. 5 月～毎月開催）

月に 1 回のペースで zoom にて各支部から 1 名ずつ集まり、住宅等小規模向けの建築家の活動について議論をしています。

○ 2022 年度の主な活動実績

① 告示 98 号改訂について

戸建住宅に関する業務報酬の改善に向けて、昨年に続き、業務作業時間の取りまとめ、データ分析を行い、国交省と継続して打合せしています。

② ZEH 水準の建築物の必要壁量の検討について

ZEH 水準の建築物が、従来の建築物より重量が増加することによる、木造建築物の必要壁量の見直しについて、国交省との意見交換に 5 月と 10 月に参加しました。

新たな必要壁量の規定については、昨年 10 月に技術的資料が国交省より公表されています。

③ 国交省が行うパブコメへの参加

今年 1 月の国交省から募集のあった現行法改正についてのパブコメについて、住宅等連携会議から、特に省エネ、戸建住宅に関する改正部分に対する意見を提出しました。

④ 地域で活躍されている建築家の紹介

建築家インタビューという形で、地域で活躍されている建築家を住宅等連携会議のホームページ上で紹介する活動を行っています。

6 月に北陸の竹内申一さん、8 月に近畿の郡裕美さんをご紹介させていただきました。

引続き、各支部ごとに順にご紹介していく予定です。

⑤ 建築家、コストをデザインする

JIA 建築家大会 2022 沖縄のオンラインイベントとして行いました。

パネリストに、浅井裕雄さん、畝森泰行さん、小坂幹さん

ファシリテーターに、西田司さん

をお迎えし、2時間のイベントを zoom にて行いました。

来年度の全国大会でも同様なイベントを行う予定で計画しています。

—事業グループ—

リーダー 保科文紀

「JIA 会員による学生のための出前授業 砂澤ビッキ記念館 設計プロセスを語る」
を行いました。

日時：2022 年 9 月 13 日（火） 15：30 ～17：00

実施場所：北海道おといねっふ美術工芸高等学校

講師：保科文紀（砂澤ビッキ記念館設計者）

対象：高校生有志、教員、約 40 名

おといねっふ高校では毎年、有志の生徒が、記念館を訪れるビジターにビッキの作品や展示を案内したり、カフェを手伝ったりするプログラムが行われています。今回、設計者自らが設計する時に何を考えたか、工事でのおもしろエピソードなどを伝え、リアリティーのあるボランティア活動につなげてほしいと思い、企画しました。（詳細別紙）

生徒たちは熱心に耳を傾けてくれました。今後、後輩たちに話が伝承され、地元の方々がビッキを愛する気持ちが続いていくことを願います。

JIA 公益社団法人 日本建築家協会北海道支部幹事会 御中

2022年9月13日

下記の通り 事業活動を報告いたします。

事業名称「JIA会員による学生のための出前授業
砂澤ビッキ記念館 設計プロセスを語る 建築家 保科文紀」

日時 2022年9月13日（火） 15：30～17：00

実施場所 北海道おといねっふ美術工芸高等学校

北海道中川郡音威子府村字音威子府181番地の1



コロナ禍で制約のあるなか、ものづくりを志す熱心な高校生と教員 40名を集め講話は行われました。

毎年 高校生有志が美術館を訪れるビジターに砂澤ビッキの作品・展示を案内しコメントするプログラムが開催されており、今回の講話はその予備知識を伝えるという絶好の企画でありました。

氏の考えと経験から 建築家とは、ものづくりとは、からお話ははじまり 造形の発想はどこから生まれるのか、そして当美術館の設計プロセス、工事現場でのエピソードなど 学生だけではなく 聞くものにとって興味のある刺激のお話でした。

おといねっふ美術工芸高等学校にとって砂澤ビッキの残した作品と精神はとても大切に、このような活動を通してつなげていただければと思います。

なお 講話の全内容は、高校の方で動画の編集作業をして後日公開されます。

事業委員 新貝記



—— 建築展グループ ——

リーダー	前川	尚治
メンバー	五十嵐	雄祐
	大杉	崇
	小倉	寛征
	鈴木	理
	大田	司
	中館	誠治
	名古屋	英紀
	弘田	亨一
	米花	智紀
	佐野	天彦

1) 「北海道の建築展 2022 -受け継がれて進む地域性を見つめて-」の開催

2022年9月23日～10月10日 開催場所：札幌芸術の森美術館

企画展キュレーター：磯達雄氏 「受け継がれて進む地域性を見つめて」

会員展コーディネーター：植田暁氏 「風景に働きかける建築の魅力」

来場者数：4,370人（18日間）

本展を告知するための模型展示イベント

2022年9月16日～9月19日 開催場所：チカホ

25年登録グループ

- ・2022年度「JIA25年建築選」及び第22回「JIA25年賞」に JIA25年建築選へ全国から19件の応募がありました。うち北海道から2件の応募について、書類審査の後、2件の現地審査を実施しました。
「本の森 厚岸情報館」を JIA25 年建築選へ登録推薦とし、結果として「JIA25年賞」を受賞することとなりました。
- ・北海道内の多くの作品が25年建築選の候補となる現状を考え、登録グループとしても積極的に応募できる環境を整えるため、登録グループのメンバーも見直しながらか引き続き活動をおこなっていく検討を始めています。

・第3回 JIA 北海道建築大賞2022の公開審査を建築展の会期中10月8日（土）

芸術の森で行いました。

住宅部門10作品・一般部門12作品の公開審査を行い下記作品が現地審査となりました

1: 0 project

2: レストラン フェネトレ

3: 境川の家

4: 富良野の異形屋根

（一般部門）

5: 浦河フレンド森のようちえん

6: 曾澤高圧コンクリート株式会社深川工場

・11/4（金）～11/6（日）に現地審査を行いました

11/4（金）浦河フレンド森のようちえん→0 project→境川の家

11/5（土）曾澤高圧コンクリート株式会社深川工場→富良野の異形屋根

11/6（日）レストラン フェネトレ

・1/12 新年恒例会にて表彰を行いました

大賞：0 project

住宅部門優秀賞：富良野の異形屋根

一般部門優秀賞：曾澤高圧コンクリート株式会社深川工場

審査委員賞（飯田賞）：浦河フレンド森のようちえん

審査委員賞（高木賞）：レストラン フェネトレ

審査委員賞（米田賞）：境川の家

—— テスクコンペグループ ——

リーダー 鈴木 理

2022年度は活動がありませんでした。

—— 卒業設計グループ ——

リーダー	中舘 誠治
全国委員長	伊達 昌広
メンバー	前田 芳伸

1) JIA 全国学生卒業設計コンクール2022

2022年6月18日（土） 建築家会館、JIA 館（東京） オンライン審査

全国より 52 作品（北海道 3 作品）が出品。コロナ感染拡大防止のためオンラインでの審査及び Youtube で
の 2 次審査ライブ配信を行う。作品集を編纂（協賛者へ配布）

（道内結果） 田元良 （北海道科学大学） 一次審査通過

準備会議は通年にて年 10 回程度開催。審査当日は東京での開催業務にあたる。

2) JIA 北海道学生卒業設計コンクール2023

2023年3月14日（火） 北海道芸術デザイン専門学校 ホール

3 年振りとなる、対面での公開審査を開催。道内各学校より登録 29 名あったが、当日までの参加辞退及び
病欠もあり最終 20 名の参加（一部オンラインでの審査対応）での開催。全国へ推薦される金・銀・銅賞の
ほか、審査経過により銅賞同等として 3 位 2 名、及び審査委員特別賞 3 名を選出。各受賞者に賞状、全国推
薦者には参加旅費として 5 万円の副賞を贈呈。

審査委員 佐藤孝、照井康穂、伊藤千織（プロダクトデザイン）

審査結果

金賞 御山の灯籠 -彼方者の標で彼等を想う- 大畝悠介（北海学園大学）

銀賞 重曹する秩序 飯田二千翔（北海道科学大学）

銅賞 時計台の蓄積 高橋陸（北海道大学）

3 位 風景を醸成する -鶴居村にふさわしい建築のあり方- 石黒 陸人（室蘭工業大学）

芽生 種子から果実を实らせる計画 梁 憲杰（北海道芸術デザイン専門学校）

審査委員特別賞

藍幕文化郷 伊東大悟（札幌市立大学）

畝り繋ぐ駅 竹田 隼人（北海道芸術デザイン専門学校）

苔谷の縫目 福井香穂（北海道科学大学）

(1)2022 年度 AIJ-JIA 活動報告会

2023 年 1 月 25 日(水)18:00～19:00 JIA 事務局ハイブリッド開催。参加 15 名

■AIJ 支部報告:小澤 丈夫(日本建築学会北海道支部長)

・北海道支部研究発表会は オンライン開催(論文数:113 編)、また第 41 回北海道建築作品発表会は、ハイブリッド形式で開催(28 作品)した。

・第 46 回北海道建築賞は、建築賞:小澤丈夫(北海道大学医学部百年記念館)、奨励賞:青木弘司(伊達の家)、奨励賞:遠藤謙一良(株式会社遠藤建築アトリエ新社屋)。

・支部技術賞「森から考える建築〜エゾマツを使用した新たな在来軸組工法と室内気候の計画〜」遠藤謙一良、安藤耕作、齊藤雅也

■JIA 支部報告:小西 彦仁(日本建築家協会北海道支部長)

・「北海道の建築展 2022」9/23～10/10 入場者はおおよそ 4400 名。

・第 3 回 JIA 北海道建築大賞(応募数 22 作品)は、大賞:宮城島 崇人(O project)、住宅部門優秀賞:高木 貴間(富良野の異形屋根)、一般部門優秀賞:圓山 彬雄(會澤高圧コンクリート株式会社深川工場)。審査委員賞 飯田賞:照井 康穂(浦河フレンド森のようちえん)、高木賞:赤坂真一郎・佐野光(レストラン フェネトレ)、米田賞:堀部 太(界川の家)

・キタコブシ賞:藤塚 光政

・旭川「生き続けるモダニズム建築」展 6/3-7/3 ステージョンギャラリーにて開催

・南幌町きた住まいるヴィレッジに協力

・学生のための出前授業「砂澤ビッキ記念館 設計プロセスを語る」道立おといねっふ美術工芸高校にて

■その他

・両支部の報告年度にズレが生じたので、報告会名称を「この一年の活動」とする。

・終了後、懇親会開催。

(2) JIA セミナー「菊地 優(前学会支部長)講演会」6 月開催予定。

1) 令和4年度（2022年）高校生建築デザインコンクール

道内の建築を志す高校生の勉強の励みとし、将来の建築家・建築技術者となる若年層の育成と技術向上に寄与することを目的として、平成8年度（1996年度）から実施。道内の建築系学科が設置されている高等学校に在籍する生徒から夢のあるユニークなアイデアを募集するコンクールである。

■設計課題：パークゴルフ場の休憩所

～北海道立宗谷ふれあい公園内に、主にパークゴルフ場を利用する方が使用する休憩所を設計し提案してください

■敷地面積：600m²

■建築物の構造・規模：木造平屋建て 延床面積 125m²～175m²以下 1棟

■設計条件：冬季間は閉鎖、高齢者の利用に配慮、車椅子を使用される方が利用できるように配慮

■応募資格：道内の高等学校（建築系学科）に在籍する個人または2名のグループ

■提出図面：JIS規格A2版 横置き1枚片面に下記のすべてを表現すること

- ・作品タイトル
- ・設計主旨（300文字以内で完結に記入のこと）
- ・配置図（敷地寸法・方位明記）、平面図、立面図、断面図 縮尺1:100
- ・スケッチまたは模型写真または透視図
- ・面積表

■応募作品：7校から85名が参加し76作品の応募あり

■入選作品：最優秀作品賞 ～1作品

優秀作品賞 ～3作品

佳作 ～4作品

特別賞 ～2作品

■経過：募集要項配布 令和4年 7月 5日

作品受付 令和4年11月30日まで

選定委員会 令和4年12月15日

作品展 令和5年 1月7日～8日（札幌駅前地下歩行空間）

■共催：北海道建設部建築局建築整備課

北海道教育庁学校教育局高校教育課

公益社団法人 日本建築家協会

一般社団法人 北海道建築士事務所協会

一般社団法人 北海道建築士会

2) 北のジュニア・オープンデスク

- 新型コロナウイルスの影響により、安全や健康等を考慮し昨年度に続き今年度も中止とした。
令和5年（2023年）3月13日よりマスク着用は「個人の判断」が基本となり、また、法律に基づいて政府より、同年5月には新型コロナウイルスが2類相当から5類に移行することが発表されている事もあり、引き続き感染防止対策をしながら3年振りに開催したいと思っている。

3) 本部教育委員会

- 委員会はWEBにて実施（全7回）

- ・第1回目：2022年 1月25日（火） 18:00～20:00
- ・第2回目：2022年 3月31日（木） 18:00～20:00
- ・第3回目：2022年 5月30日（月） 18:00～20:00
- ・第4回目：2022年 9月 1日（木） 18:00～20:00
- ・第5回目：2022年11月 4日（金） 18:00～20:00
- ・第6回目：2023年 1月16日（月） 18:00～20:00
- ・第7回目：2023年 3月22日（水） 18:00～20:00

- 主な議題

- ・今年度の本部教育委員会の構成・委員の紹介
- ・委員会のミッションおよび本部実施の教育関連事業について
- ・各支部の活動状況を共有化
- ・各支部の新入会員対応、教育プログラム実施状況の共有化
- ・リフレッシュセミナー2022の実施・休止について
- ・関東甲信越支部事業「建築セミナー」のあり方について
- ・2022年度オープンデスクの実施・休止について
- ・オープンデスク規則改定（案）について（承認手順等について一部変更改定する案）
- ・JIAスクールの各支部実施プログラムのCPD認定状況の確認
- ・今後に於いてCPD評議会と協力体制を組みどのように広報するかの方法を模索
- ・新教育事業（コンテンツ）について
- ・次年度の委員会構成・委員について

- 次年度の活動予定（2023年度）

- ・ここ3年余り、コロナ禍で止む無く活動を自粛してきたが、社会状況を鑑みながら徐々に活動をスタートし、上記に挙げた議題について具現化しながら、会員にとって有益な情報源を発信すべく教育委員会を本格始動する予定である。

以上

■旭川地区会会議（展覧会打合せ、作業参集含む）

【開催】 4/1、4/28、5/20～5/30、9/26、11/9、12/16、2/6、2/15、3/1

■「生き続けるモダニズム建築」展 開催

会期：6/3（金）～7/3（日）

入場者数： 約 1200 人

トークイベント：6/11（土）13：30～、6/25（土）13：30～

「Asahikawa School 53.54」との併催 各約 30 名の参加

■Asahikawa School

vol.55 から開催の拠点を買物公園に面した「まちなかぶunka小屋」に移した。
建築文化の発信をしながら、市民の関心を捉え参加を促したいと考えている。

□ vol.53 /2022 年 6/11（土）13：30 Zoom 併催

「生き続けるモダニズム建築」 スピーカー：大矢、齋藤、石田

【参加人数】11 名 + ギャラリー来館者 20 名ほど 計約 30 名

□ vol.54 /2022 年 6/25（土）13：30 Zoom 併催

「赤レンガ市庁舎の軌跡と未来」 スピーカー：柳、重綱

【参加人数】11 名 + ギャラリー観覧者 20 名ほど 計約 30 名

□ vol.55 /2022 年 11/2（水）18：30 Zoom 併催

「西神楽アグリコレクティブハウス」 スピーカー：石田純枝

「Asahikawa Park Hotel{The Sauna Village}」 スピーカー：末木貴茂

「(仮称) 旭川リサイクルセンター」 スピーカー：山田英貴

【参加人数】13 名

□ vol.56 /2023 年 3/23（木）18：00 Zoom 併催

「Soft City 旭川市の都市デザインへの提案」 スピーカー：佐々木司

「秋田-青森の建築旅行記」 スピーカー：澤村尚浩

【参加人数】14 名

■旭川市庁舎関連の活動

- ・ DOCOMOMO Japan の旭川市庁舎見学取りつぎ依頼に対応
9/7（水）13：30～ 1 時間程度 旭川市管財課の協力をいただく
DOCOMOMO 9 名、旭川地区会 3 名 参加

市長との面談 9/15（4 名）、9/29（3 名）

■協力会商品説明会への協力

2023 年 1 月 31 日（火）13：30～16：30
大雪クリスタルホールにて開催
士会、事務所協会、施工者等への告知、協力

■ 北総研との協働について

「鷹栖市街地の基本構想および基本計画にかかるイメージ図等作成業務」
鷹栖町市街地におけるエリアマネジメントによる市街地活性化のために、
市街地の基本構想および拠点となる複合施設の基本計画に関するイメージを作成。
5 名でチームを作り対応 2020 年度よりの継続事業

2022年度 道東地区 活動報告

■6月3日～7月3日 JIA 旭川主催「生き続けるモダニズム建築」展 参加。

東地区のモダニズム建築を紹介。釧路出身の建築家、毛綱毅曠の建築を中心に展示。

お気に入りとして「北海道大学厚岸臨海実験場」を展示。

■6月22日釧路・23日帯広 法人協力会商品説明会、意見交換会開催。

参加法人協力会は11社、各社ブースを設け来訪者に商品説明を行うスタイルで開催。

釧路、帯広合わせて50数名の参加。

■9月23日～10月10日 北海道の建築展に釧路より正会員2名、ジュニア会員1名各1作品出展。

■10月21日・22日 沖縄全国大会に釧路より正会員2名、ジュニア会員1名参加

■月曜塾 1月31日総会・2月14日・3月14日・4月11日・5月16日・6月13日・7月11日・9月12日

11月14日 例会 (Zoom)

——函館地区グループ ——

リーダー 原田 雅文

2022年度は活動がありませんでした。

----- 顧問・渉外 -----

リーダー 遠藤 謙一良

2022 年度は活動ありませんでした。

2023 年度活動方針に従い、顧問渉外グループの活動を進めたいと思います。